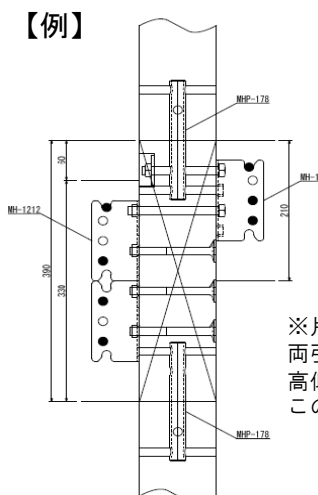
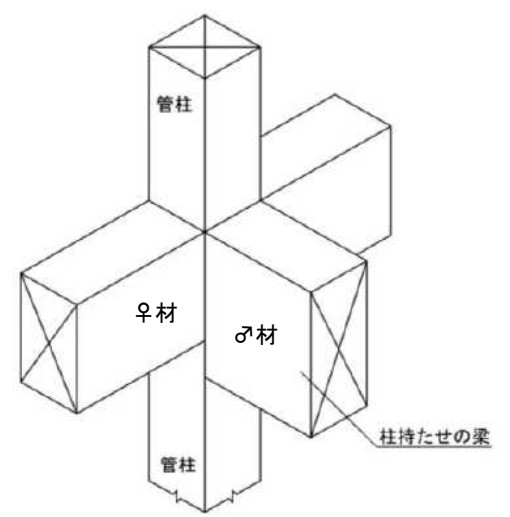


[SSマルチ金物工法製品情報](#) >>

◆SSマルチ金物工法

Q	A
対応材成はいくつまでですか？	柱材は105mm～、横架材は105mm～630mmまで、登り梁は150mm～360mmまでとなります。
対応材種を教えてください。	<p>柱材 同一等級構成構造用集成材 (樹種：スプルス) 等級E95-F315と同等以上</p> <p>横架材 対称異等級構成構造用集成材 (樹種：スプルス) 等級E105-F300と同等以上となります。</p> <p>また、ハイブリッドビームの場合は、</p> <p>柱材 同一等級構成構造用集成材 (樹種：スギ) 等級E65-F255と同等以上</p> <p>横架材 対称異等級構成構造用異樹種集成材 (樹種：ペイマツ+スギ) 等級E105-F300と同等以上となります。</p> <p>スプルスとは金物耐力が異なりますので、詳しくはCSセンターまでお問い合わせください。</p>
オーバーハングには対応できますか？	在来工法のような梁を持ち出してのオーバーハングは設計方法により可能です。ただし、片持ち梁でのオーバーハングは禁止となります。

[このページのトップへ戻る](#) >>

Q	A																																								
<p>梁受け金物の材質やメッキはどのようなものですか？</p>	<p>梁受け金物はJIS G 3302構造用SGH400と言う鋼材を使用しています。道路のガードレールにも使用されているとて強固な鋼材です。メッキは当社筋かい金物にも使用されている溶融亜鉛めっきと、さらにその上にカチオン電着塗装を施しています。カチオン電着塗装は自動車の底部部品にも使用されているメッキで、防錆に富んだメッキと言えます。</p>																																								
<p>梁受け金物の上げ下げは行って良いですか？</p>	<p>ボルトピッチ（30mm）刻みでの上げ下げは可能です。</p> <p>【例】</p>  <p>※片側の梁受け金物を60mm下げて両引きで対面する梁上端を60mmの高低差をつけた例 この場合ナットが必要になります。</p>																																								
<p>梁の柱持たせは禁止ですか？</p> 	<p>原則として柱持たせは禁止です。但し、同一梁受け金物を使用する材成の組み合わせでの柱持たせは可能です。 ※受け材と下柱の材寸が異なったり、芯ずれがあると納まらない場合があります。 金物は梁と柱にまたがってはいけません。</p> <table border="1" data-bbox="798 1321 1404 1993"> <thead> <tr> <th>金物</th> <th>♂材成</th> <th>取付け可能♀材成</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MH-90</td> <td>105</td> <td rowspan="3">105以上</td> </tr> <tr> <td>120</td> </tr> <tr> <td>150</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-120</td> <td>180</td> <td rowspan="2">180以上</td> </tr> <tr> <td>210</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-180</td> <td>240</td> <td rowspan="2">240以上</td> </tr> <tr> <td>270</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-1212</td> <td>300</td> <td rowspan="2">300以上</td> </tr> <tr> <td>330</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-1218</td> <td>360</td> <td rowspan="2">360以上</td> </tr> <tr> <td>390</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-1818</td> <td>420</td> <td rowspan="2">420以上</td> </tr> <tr> <td>450</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-181212</td> <td>480</td> <td rowspan="2">480以上</td> </tr> <tr> <td>510</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-181812</td> <td>540</td> <td rowspan="2">540以上</td> </tr> <tr> <td>570</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-181818</td> <td>600</td> <td rowspan="2">600以上</td> </tr> <tr> <td>630</td> </tr> </tbody> </table>	金物	♂材成	取付け可能♀材成	MH-90	105	105以上	120	150	MH-120	180	180以上	210	MH-180	240	240以上	270	MH-1212	300	300以上	330	MH-1218	360	360以上	390	MH-1818	420	420以上	450	MH-181212	480	480以上	510	MH-181812	540	540以上	570	MH-181818	600	600以上	630
金物	♂材成	取付け可能♀材成																																							
MH-90	105	105以上																																							
	120																																								
	150																																								
MH-120	180	180以上																																							
	210																																								
MH-180	240	240以上																																							
	270																																								
MH-1212	300	300以上																																							
	330																																								
MH-1218	360	360以上																																							
	390																																								
MH-1818	420	420以上																																							
	450																																								
MH-181212	480	480以上																																							
	510																																								
MH-181812	540	540以上																																							
	570																																								
MH-181818	600	600以上																																							
	630																																								

梁受け金物MH

Q	A																																																																						
<p>梁受け金物は、通常に取り付け位置を維持した状態で、梁自体の上げ下げは可能ですか？</p>	<p>梁の下げは禁止です。但し、同一梁受け金物を使用する材成の余長分の上げは可能です。 ※下表は、♀材成が♂材成以上となる納まりの場合。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>金物</th> <th>♂材成</th> <th>上げ max</th> <th>下げ max</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">MH-90</td> <td>105</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>120</td> <td>15</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>150</td> <td>45</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-120</td> <td>180</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>210</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-180</td> <td>240</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>270</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-1212</td> <td>300</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>330</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-1218</td> <td>360</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>390</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-1818</td> <td>420</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>450</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-181212</td> <td>480</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>510</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-181812</td> <td>540</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>570</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">MH-181818</td> <td>600</td> <td style="color: red;">0</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> <tr> <td>630</td> <td>30</td> <td style="color: red;">0</td> </tr> </tbody> </table>	金物	♂材成	上げ max	下げ max	MH-90	105	0	0	120	15	0	150	45	0	MH-120	180	0	0	210	30	0	MH-180	240	0	0	270	30	0	MH-1212	300	0	0	330	30	0	MH-1218	360	0	0	390	30	0	MH-1818	420	0	0	450	30	0	MH-181212	480	0	0	510	30	0	MH-181812	540	0	0	570	30	0	MH-181818	600	0	0	630	30	0
金物	♂材成	上げ max	下げ max																																																																				
MH-90	105	0	0																																																																				
	120	15	0																																																																				
	150	45	0																																																																				
MH-120	180	0	0																																																																				
	210	30	0																																																																				
MH-180	240	0	0																																																																				
	270	30	0																																																																				
MH-1212	300	0	0																																																																				
	330	30	0																																																																				
MH-1218	360	0	0																																																																				
	390	30	0																																																																				
MH-1818	420	0	0																																																																				
	450	30	0																																																																				
MH-181212	480	0	0																																																																				
	510	30	0																																																																				
MH-181812	540	0	0																																																																				
	570	30	0																																																																				
MH-181818	600	0	0																																																																				
	630	30	0																																																																				

梁受け金物MH 梁継手

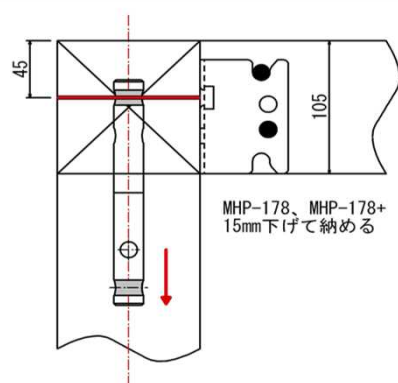
Q	A
<p>柱から継手までの持ち出し寸法はいくつですか？</p>	<p>持ち出し寸法は決まっておりません。基本的に在来工法と同様の考え方で運用しておりますので、設計主の判断で決まります。</p>

登り梁受け金物NB

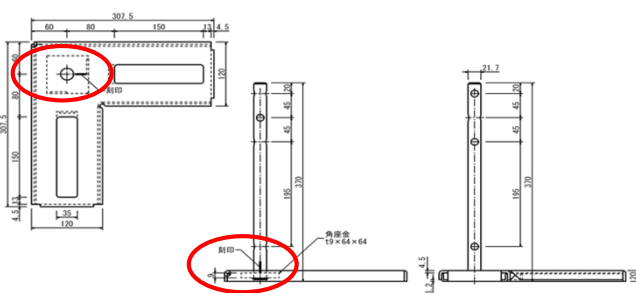
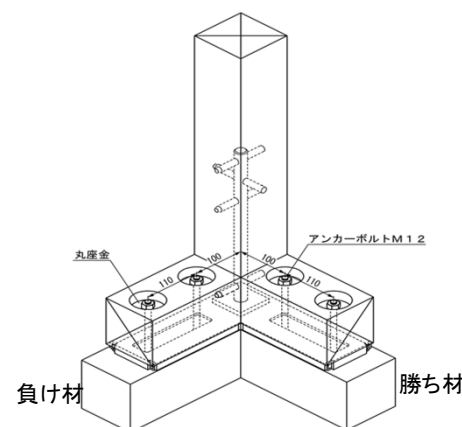
Q	A
<p>1寸～3寸勾配にも登り梁受け金物NBを使用して良いですか？</p>	<p>1寸～3寸勾配には梁受け金物MHを使用してください。</p>
<p>NBとNBGはどういった使い分けですか？</p>	<p>NBが登り梁下端、NBGが登り梁上端となります。</p>

[このページのトップへ戻る](#)»

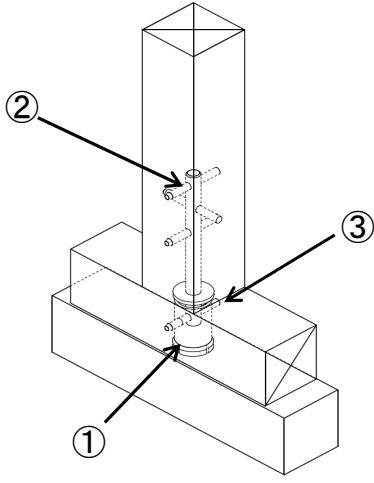
ホゾパイプMHP

Q	A
ホゾパイプの (+) はどの場合に使用しますか？	柱が現し（真壁）の場合に使用します。
ホゾパイプ178はドリフトピン4本で中柱が20kN、隅柱で15kNですが、それ以上の耐力が必要な場合は何を使用すれば良いですか？	MC・MCK・CKB等の柱脚金物を使用するか、ホールダウン金物を併用して引き抜きに対応させます。柱頭に関しては柱勝ちにすることでホールダウンの使用を避けられます。
ホゾパイプの上げ下げは行って良いですか？	<p>ホゾパイプの上げ下げは禁止となっております。但し、MHP-178、MHP-178+において以下の場合のみ柱側に15mmオフセットされます。</p> <p>※MHP-178、MHP-178+において下図の上げ下げをした場合の引張耐力は、MHP-118、MHP-118+の耐力として評価します。</p> 

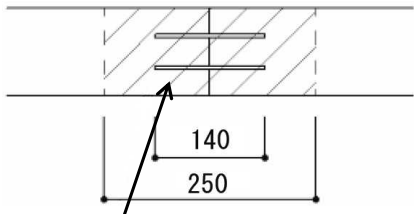
柱脚金物MCK

Q	A
MCK柱脚金物のコーナー型は土台の勝ち方向は決まっていますか？	<p>決まっております。パイプと台座部分の刻印を合わせてください。刻印側が勝ち材になります。また、土台は突き付け（現造）で納めてください。梁受け金物を使用すると柱脚金物のアンカーボルトに干渉します。</p>  

柱脚金物MC

Q	A
<p>カップ型の金物とパイプ側の金物との間に隙間ができてうまく柱を差し込めないと思うのですが、金物が違うのでしょうか？</p>	<p>金物は合っています。①まず、カップ型の金物を置き、予め埋め込んでおいたアンカーボルトに緊結します。②次にパイプを柱芯に空けた穴に差し込み、ドリフトピン3本で固定します。③最後に柱を立て土台側にドリフトピンを打ち込んで完了となります。</p> 
<p>引張耐力46.6kNとありますが、M16アンカーボルト埋め込み長さはいくつ確保すれば良いのですか？</p>	<p>ZマークM16アンカーボルトで計算すると670mmとなり、埋め込み長さを確保するのは難しいと思われます。その際、当社の異型Sアンカーボルトを使用すると300mmの計算になります。また、新商品のオメガアンカーボルトM16 L=350を使用する場合は、290mm以上の埋め込み長さで対応可能です。</p>

土台継手金物DT

Q	A
<p>土台継手の近くに大引きが来てしまっても問題はありますか？</p>	<p>土台継手中心部から250mm以内に大引きが架かる場合は土台継手を逃がしてください。</p>  <p>この範囲に大引きがくる場合は土台継手を逃がす。</p>

[このページのトップへ戻る](#) ≫

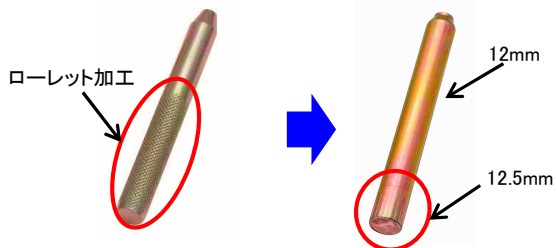
マルチボルトMB

Q	A
SSLOCKのマルチボルトと同じですか？	木材を切り欠く刃を改良したので、SSLOCKのマルチボルトより木材の切り欠きがスムーズになりました。
マルチボルトの103はどの場合に使用しますか？	105巾の横架材の片側に大引き彫り15mmが加工されている際に使用します。

中ボルトCB

Q	A
中ボルトCB-20はどこに使用しますか？	梁継手の金物を抱き合わせる際に使用します。
中ボルトが足りなくなってしまったので、ZマークのM12ボルトで代用しても良いですか？	軸径が異なりますので必ず中ボルトを使用してください。

ドリフトピンMDP

Q	A
ドリフトピンの85と95はどの場合に使用しますか？	85は105角の3方向化粧柱、95は120角の3方向化粧柱に使用します。
ドリフトピンは他の金物工法と変わりませんか？	<p>従来のドリフトピンに見られたローレット加工がありません。線の入っている部分は0.5mm太くなっている為、入りやすく抜けにくいピンとなり、施工時間の短縮も図れます。</p> 

[このページのトップへ戻る](#)»